

岡山県立倉敷まきび支援学校 第1回 学校運営協議会 議事録

開催日：令和5年5月16日(火)

会場：大会議室・会議室1

開会あいさつ（梶谷校長）

学校運営協議会も3年目になった。

コロナの状況も変わってきた。表情から伝わることも多いため、安心安全に配慮しながらできるだけマスクを取って教育活動を行っていきたいと考えている。子ども達の表情もたくさん見られるようになってうれしく思っている。

学校経営に係る基本方針及び重点課題について（梶谷校長）

今年度のテーマは「ネクストステージ～次の10年～を目指して」

この10年で被災、コロナ禍などがあつた。元に戻すというよりは、それらで培ったことを生かして、これからのスタイルを築いていきたい。

いじめ問題対策基本方針（岸本教頭）

ネットパトロールや困ったことアンケートの実施（今年度は月に1回）を通して、未然防止、早期発見、早期対応につなげていく。いじめ問題対策基本方針はホームページにもアップし、保護者や地域にも広く知らせていく。

創立10周年記念行事について（小野副校長）

記念行事は12月20日（水）を予定している。

記念事業として、10周年記念誌の発行、ビオトープ造設、イメージキャラクターの募集などを実施する。

記念行事の参加者への記念品や、ビオトープに設置する花壇やベンチを中学部、高等部の生徒が作業学習で制作に携わる予定である。

グループ協議

就労班

事業所参観日を11月17日（金）に予定している。昨年度、当日タイトなスケジュールとなったため、今年度は少しゆとりをもたせた計画にした。企業に向けての学校説明、授業見学、グループ協議、講演会を実施する。講演は障害者の受け入れや、受け入れに当たっての社員の研修に熱心に取り組んでいる企業様にお話をいただく予定にしている。また、案内を真備船穂商工会の会報に同封させていただくことで、今まで参加したことのない企業の参加につながることを期待している。

環境・安全班

地域への貢献として例年通り、清掃活動、プランターの配付、歩道沿いの花壇の整備、あいさつ運動に取り組んでいく。公民館分館の調理室の清掃を担ってほしいとの意見が出たので、公民館の分館長と連携しながら活動を考えていく。また、あいさつ運動は集うのが難しいのであれば、時を共有（地区内の学校で日を決めて一斉に実施）することも地域の活性化につながるのではないかと意見も出た。

地域の方との交流（マレットゴルフ、真備・船穂総踊り、田植え体験など）は児童生徒にとって貴重な体験になっている。

福祉班

まきびカフェは今年度も実施する。保護者同士のつながりができ、ともに前向きに、時にゆっくりと心を整えて子育てに向かえると好評である。校外の保護者にも広めていきたい。

相談会では、まだ福祉とつながっていない保護者を事前にリストアップすることで、全員がつながるように働き掛けていきたい。

教育班

大学では、オーケストラなど団体はもちろん、ソロで活動している学生も多くいる。学生の学びとしてボランティアやインターンシップも貴重な経験である。今年度は箭田小との学校間交流も実施したい。校庭の活用も可能である。情報を共有して様々な交流が実現できたらと考えている。

まとめ（着席順）

中山さん（TEORI / 商工会会長）

まきび公園の花壇について、引き続き管理をお願いしたい。

瀬戸山さん（くらしき作陽大学講師）

教員養成課程の学生には、早い段階で支援を必要とする児童生徒と交流する機会を与えたいと考えている。大学にも障害のある学生が入学してきている。支援の面でご指導をいただきたい。

藤本さん（ハローワーク総社所長）

事業所参観日の周知をハローワークの立場からも考えたい。

唐川さん（ももぞの学園施設長）

施設周辺の過疎化、高齢化が進んでいる。地域の方から田んぼの管理を依頼され、入所者と一緒に取り組んでいる。地域のニーズに応え、地域とともに歩む素晴らしさを実感しているところである。

永田さん（倉敷地域基幹相談支援センター所長）

近年、卒業生やその保護者からの相談、問い合わせが増えている。コロナ禍で保護者の集まる機会が減ったためと思われる。保護者同士が情報を共有できる機会をぜひ在学中に設けてほしい。

川崎さん（真備地域生活支援センター所長）

真備地域の相談件数が少し増加している傾向にある。幼稚園、保育園の先生方、保健師の方の意識の高まりと捉えている。今後も幼少期や成人を迎える前に相談してよいといった土壌づくりに取り組んでいきたい。

浅利さん（PTA会長）

人が好き、あいさつをするなど、生きていく上で基本的なところを地域で育ててもらっていると実感している。今後も積極的に地域活動に参加したい。

武政校長（箭田小学校）

倉敷まきび支援学校の施設・設備のこと、教育活動のことなどをもっと知り、教職員にも広めていきたい。

上田さん（箭田地区まちづくり推進協議会）

登校時の見守り、あいさつをしているが、いつもとてもいいあいさつが返ってくる。これ以上あいさつ運動をしなくてもいいくらいのレベルの高さを感じている。

百本さん（地域コーディネーター）

被災を経験したが、学校も地域もそれをプラスに変えていく力があると感じている。

真備船穂総踊りが開催されるが、七つの地区がそれぞれのカラーで輝くので、期待してほしい。

閉会あいさつ（中山さん）

この10年で様々なことがあったが、乗り越えたことで学校も地域も成長した。

今年度、真備船穂総踊りが3年ぶりに開催される。コロナの状況も落ち着き、再出発の年にしたい。

今後もさらに地域と学校が持ちつ持たれつのよい関係を築いていきたい。